



## ボッシュとメルセデス・ベンツ: 米サンノゼで 自動運転配車サービスの実証実験を開始

2019年12月9日

PI 11064 CC joe/Bär

- ▶ ボッシュとメルセデス・ベンツ、自動運転配車サービスの実証実験から自動運転の開発のためのさらなる知見を獲得
- ▶ サンノゼ西部と都心部で、ボッシュとメルセデス・ベンツの自動運転システムとソフトウェアを装備した S クラスの自動運転車両によるシャトルサービスを提供
- ▶ 都市部における自動運転車両開発で、ボッシュはコンポーネントの開発・製造を担当
- ▶ ダイムラー・モビリティ AG のフリートプラットフォームにより、配車サービスのパートナー企業・団体は、自動運転車両を各自の交通サービスへ組み込むことが可能
- ▶ 安全性、環境に与える影響、交通の流れの改善を視野に、サンノゼが同市のインフラを実証実験に提供

シュトゥットガルト(ドイツ)、サンノゼ(米国カリフォルニア州) – 都市部での自動運転の開発に向けたボッシュとメルセデス・ベンツの合同プロジェクトは、新たなステージに突入しました。サンノゼのシリコンバレーにおいて、メルセデス・ベンツ S クラスの自動運転車両を用いたアプリベースの配車サービスに向けた、両社による実証実験が始まりました。セーフティドライバーの監視のもと、自動運転車両がサンノゼ西部と都心部間のサンカルロス通りとステューブンス・クリーク通りを定期往復します。本サービスは、開始当初は特定のユーザーのみを対象としています。ユーザーは、ダイムラー・モビリティ AG が開発したアプリを使用し、決められた乗車地点から目的地まで、S クラスの自動運転車両による走行を予約することができます。ボッシュとメルセデス・ベンツはこの試みにより、高度・完全自動運転(SAE レベル 4/5)システムのさらなる開発に向け、有益な知見が得られることを期待しています。また、公共交通機関やカーシェアリングを含む複合的なモビリティシステムに、どのように自動運転車両を統合できるかについても、さらなる知見が得られると期待しています。

## ポッシュ、メルセデス・ベンツ、サンノゼ - 未来のモビリティ化に向けたパートナー

2017年中頃、道路交通において増大する課題の分析のために、サンノゼが米国で初めて自動運転の実証試験に民間企業を誘致しました。特に混雑した市街地走行では、自動運転車両のサラウンドセンシングによって、潜在的に安全性を向上させることができ、またスムーズな走行スタイルにより交通の流れを改善することが可能です。「市として、自動運転車両がどのように安全性の向上と渋滞の緩和に役立つのか、また交通手段をさらに利用しやすく、持続可能で、包括的なものにする上で役立つのか」という点について、より多くのことを知りたいと考えています。メルセデス・ベンツとポッシュのプロジェクトは、サンノゼの掲げる『スマートシティ』の目標と結びつきます。さらに、新しいテクノロジーに対処するためのガイドラインの策定や、将来の交通システムへの準備という点でも、私たちにとって有益なものとなるでしょう」と、サンノゼ市政革新・デジタル戦略ディレクターの Dolan Beckel 氏は述べています。「自動運転が日常的に使用されるためには、そのテクノロジーが高い信頼性と安全性を持って機能する必要があります。そのためには、サンノゼでの実証実験のようなテストが必要となります」と、ロバート・ポッシュ GmbH の都市部自動運転の開発を率いる Michael Fausten は述べています。また、「その性能を証明しなくてはいけないのは、自動運転車両だけではありません。私たちシステム開発者もまた、自動運転配車サービスが都市交通というパズルに、1つのピースとしてフィットすることを証明する必要があります。私たちはこの両方をサンノゼでテストすることができます」と、メルセデス・ベンツ AG で自動運転を率いる Uwe Keller 氏は語りました。

8月から11月まで、プロジェクトの代表者は、サンノゼ市の職員とともに、複数の地域団体とこのプロジェクトについて議論をしました。さらに、シャトルが通行する通り沿いの近隣住民や企業グループとの7回にわたる集会において、プロジェクトチームは目標について議論し、車両技術を見せ、プロジェクトで実装される二重の安全冗長性について説明し、将来の使用ケースについて住民からの提案を受け止めました。

## 米国と欧州でパートナーを組むポッシュとメルセデス・ベンツ

これまで約2年半、ポッシュとメルセデス・ベンツは、都市部の自動運転のためのソリューションに共同で取り組んできました。両社の共通の目的は、高度・完全自動運転 (SAE レベル 4/5) システムによる、車両管理用ソフトウェアを含む無人の完全自動運転車両です。ただし、両社の関心はプロトタイプではありません。様々な車種やモデルに組み込むことができる、量産向けシステムを開発したいと考えています。両社は、車両の動きを制御するソフトウェアの開発段階において、人工知能や試験走行距離の記録のみに頼らず、シミュレーションや特別に設計された性能試験場も使用することで、特に道路交通では稀にしか起こらないような運転状況への対応にも取り組んでいます。このため、ドイツのインメンディングゲン試験・技術センターのエンジニアは、自動運転向け専用設計された10万平方メートルの性能試験場も利用しています。ここでは、複雑な交通状況も、きわめて正確に、希望する頻度で再現することができます。このような手法を用いる理由は、ポッシュとメルセデス・ベンツが完璧であることと安全性を最優先しているからです。さらに、両社の協力は、米国の道路条件や天候条件だけを対象としているわけではありません。チームの一部は、サンノゼとサンフランシスコの

間にあるシリコンバレーのサニーベールに拠点を置いています。両社のエンジニアを含むもう1つのチームは、シュトゥットガルトで作業しています。

#### **コラボレーションにおける迅速な意思決定とコミュニケーション**

ポッシュとメルセデス・ベンツの従業員は、机を並べて座り、仕事をしています。これにより、意思決定が迅速になり、異なる専門間でのやり取りが迅速化します。そして、従業員は、いつでも親会社で働く同僚の知識とノウハウを活用することができます。ここでは、センサー、コントロールユニット、ステアリングおよびブレーキコントロールシステム、さらには自動車のサブシステム全体にわたるポッシュのノウハウは、システム統合と自動車生産に関するメルセデス・ベンツの長年の経験によってスムーズに補完されます。プロジェクト内での役割分担も同様です。メルセデス・ベンツの役割は、共同開発された自動運転システムを車両に装備できる状態にすること、および必要な試験車両、テストベイ、試験フリートを提供することです。また、ポッシュは、都市部における自動運転のためのコンポーネントの開発・製造を担当しています。

#### **プラットフォームにより、自動運転車両をタクシーフリートに統合することが可能**

自動運転配車サービスの実証実験のために、ポッシュとメルセデス・ベンツは、ダイムラー・モビリティ AG 社をパートナーに迎えました。同社は、実証実験段階において欠かせないフリートプラットフォームの開発とテストを担当します。これにより、配車サービスを提供しようとするパートナー企業・団体は、自動運転(メルセデス・ベンツ)車両を彼らのサービスラインナップに組み込むことが可能になります。このプラットフォームは、自動運転車両と従来の車両の両方を、業務と保守も含めて管理するためのものです。2019年秋、サンフランシスコの湾岸地帯で、従来型メルセデス・ベンツ車両のためのアプリベースのモビリティサービスが稼働を開始しており、ドイツの首都ベルリンでも利用可能なサービスとなっています。

**プレス写真:** #2898099, #2898100, #2898101, #2898102, #2898103

#### **報道関係対応窓口:**

Jörn Ebberg,

電話: +49 711 811-26223

Twitter: @joernebberg

モビリティソリューションズは、ボッシュ・グループ最大の事業セクターです。2018年の売上高は476億ユーロで、総売上高の61%を占めています。モビリティソリューションズの売上により、ボッシュ・グループはリーディングサプライヤーの地位を確立しています。モビリティソリューションズ事業は、Accident-free（交通事故のない）、Emissions-free（排気ガスのない）、魅力的なモビリティを目指し、自動化、電動化、ネットワーク化の領域においてグループ全域にわたる知見を結集させ、お客様にモビリティのためのトータルソリューションを提供します。その事業領域は主に、内燃機関の燃料噴射テクノロジー／パワートレイン周辺機器、パワートレイン電動化のさまざまなソリューション、車載向け安全システム、ドライバーアシスタンスシステム／自動化機能、ユーザーフレンドリーなインフォテインメントやVehicle-to-Vehicle（車車間）およびVehicle-to-Infrastructure（路車間）通信、オートモーティブアフターマーケット向けのリペアショップコンセプト／テクノロジー／サービスなどです。さらにボッシュは、電気駆動マネジメントや横滑り防止装置ESC（エレクトロニックスタビリティコントロール）、ディーゼル用コモンレールシステムなどの自動車の重要な革新技术を生み出してきました。

### 世界のボッシュ・グループ概要

ボッシュ・グループは、グローバル規模で革新のテクノロジーとサービスを提供するリーディングカンパニーです。2018年の従業員数は約41万人（2018年12月31日現在）、決算報告での売上高は785億ユーロ（約10兆円\*）を計上しています。現在、事業はモビリティソリューションズ、産業機器テクノロジー、消費財、エネルギー・ビルディングテクノロジーの4事業セクター体制で運営しています。ボッシュはIoTテクノロジーのリーディングカンパニーとして、スマートホーム、スマートシティ、コネクテッドモビリティ、さらにコネクテッドインダストリーに関する革新的なソリューションを提供しています。ボッシュはセンサー技術、ソフトウェア、サービスに関する豊富な専門知識と「Bosch IoT cloud」を活かし、さまざまな分野にわたるネットワークソリューションをワンストップでお客様に提供することができます。ボッシュ・グループはコネクテッドドライブに向けたイノベーションの提供を戦略的な目標に定め、革新的で人々を魅了する全製品とサービスを通じて生活の質の向上に貢献します。つまり、ボッシュはコーポレートスローガンである「Invented for life」人と社会に役立つ革新のテクノロジーを生み出していきます。ボッシュ・グループは、ロバート・ボッシュ GmbH とその子会社460社、世界約60カ国にあるドイツ国外の現地法人で構成されており、販売／サービスパートナーを含むグローバルな製造・エンジニアリング・販売ネットワークは世界中のほぼすべての国々を網羅しています。ボッシュの未来の成長のための基盤は技術革新力であり、世界130の拠点を約6万8,700人の従業員が研究開発に携わっています。

\*2018年の為替平均レート、1ユーロ=130.92534円で計算

さらに詳しい情報は以下を参照してください。

[www.bosch.com](http://www.bosch.com) ボッシュ・グローバル・ウェブサイト（英語）

[www.bosch-press.com](http://www.bosch-press.com) ボッシュ・メディア・サービス（英語）

<https://twitter.com/BoschPresse> ボッシュ・メディア 公式ツイッター（ドイツ語）

[www.bosch.co.jp/](http://www.bosch.co.jp/) ボッシュ・ジャパン 公式ウェブサイト（日本語）

<https://twitter.com/Boschjapan> ボッシュ・ジャパン 公式ツイッター（日本語）

<https://www.facebook.com/bosch.co.jp> ボッシュ・ジャパン 公式フェイスブック（日本語）

<https://www.youtube.com/boschjp> ボッシュ・ジャパン 公式YouTube（日本語）